

擁護の必死の大衆的闘争に於て、地主を擁護する官吏との衝突によつて、  
多数の犠牲者を出してゐる。

今や小作農氏は、地主の過当なる搾取に苦しめられ、それを脱せんとす  
れば官吏の力によつて土地を取り上げられて生活の道を奪はれ、更に牢獄  
に呻吟するの運命にあるのだ。

殊に身寄県に於ては、まき身に身寄村争議で十数名の犠牲者を出し、今又  
木崎村に於て地主眞嶋桂次郎が三十数町の土地を引上げ、五百余名の  
農民を飢饉に曝さんとするのに対して、日本農民組合は死力を尽しての闘争  
は、地主を擁護する官吏と再三の衝突となり、犠牲者総数六十名を突破せ  
んとしてゐる。

一方地主の階級的教育に抗議して成立したる日本最初の無産小作学校は、  
官吏の暴行と資金の不足によつて閉鎖の止むなきに至り、木崎全村は眞  
嶋の支配する青果園、酒防組、自警團等の暴行團と、日本農民組合との対  
立によつて益々深刻なる階級戦を帯びてゐる。

地主側のい、る反動的攻勢、土地引上げ、文毛仮差押へ等は八百萬農  
民の生存を脅かすものがあり、之に対抗しての耕作権擁護の闘争は、無  
産農民の生死の闘争である。

而して地主の政治的勢力を動員しての攻勢的態度は、同じ被搾取階級に  
あり、無産農民と全く利害を同じとする各々労働者に取つても容れざる闘  
争を有するものである。地主の攻勢は、全資本の攻勢の一端に過ぎない。

従つて反動的暴力團を喚起して農民組合を破壊せんとする攻撃は、資本家  
の利益を擁護するものである。

の労働組合に於けると二つのものと異ならない。地主が小作人の耕地を取り  
上げ農民を飢饉に追ひやるのは、馬にけも道を奪つてコック。アウトして労  
働者を死地に陥れるのと同じである。

地主・資本家は階級的利害によつて小作人・労働者に対して攻勢に出で、  
政治的にも固く結合してその力を階級闘争に利用してゐる。

故に之と闘争する小作争議に於て、我々労働者はあくまで農民と協同  
戦線を張り、農民を援助しなげればならない。農民と労働者が固く結合し  
た時に於てのみ、はじめに我々無産階級は地主・資本家を倒すことが  
出来る。

我々がバラバラになつてゐる時は、個々の陣営は何時も先暴なる復りの  
魔の手によつて粉砕され、奴隷の境遇より永久に脱することが出来ないの  
である。農民と労働者は組合に於て、政党に於て、固く結合しなげればな  
らぬ。

我々は当面の問題として、労働者と農民の協同戦線を確保する為に次の  
二点を認識する。

- 一、小作争議を積極的に支援する事。
- 二、今秋日本農民組合が全国的に挙行する耕作権確立の大示威運動を底  
援する事。
- 三、農民と協力して耕作権確立、團結獲得、言論自由を要求する委員会

解散請願運動を行ふ事。  
以上は最も重要なる問題である。従来個々の争議に於て農民と労働者の